

## 第12回ケニア非行少年処遇制度研修

国連アジア極東犯罪防止研修所 教官 脇本 雄一郎

雪が降ってる！

肌寒さを感じ目を覚ましたある朝、カーテンを開けると一面の銀世界であることに気付きました。ケニアから来た研修参加者は今頃、大騒ぎしてるぞ、と思いき出勤すると、案の定、数名が庁舎前に出てきています。空を見上げ雪をつかもうとして笑い、雪面に足跡をつけてさらに笑い、そしてデジカメを手にとりみんなで記念撮影してパチリパチリ。

東京にも雪が降りました。

第12回ケニア非行少年処遇制度研修の研修参加者14名は、朝食もそっこのけで外に出て、まるで小学生のように、生まれて初めての雪遊びに興じています。それもそうでしょう、ケニアは赤道直下、東アフリカの国。サバンナ広がる世界です。

ところで、この14名、当然ながら雪遊びに来たわけではありません。実はみなさん、ケニアにて少年司法・児童福祉制度を担う中堅職で、具体的に申し上げますと、同国児童局、更生保護局、矯正局、裁判所、警察から選抜された地方幹部級職員なのです。

彼らのアジ研での研修テーマは、ずばり「人材育成」。

というのも、現在、ケニアでは、少年司法・児童福祉関係職員の「人材育成」プロジェクトが進められているからなのです。アジ研は、年来、JICAと協力し、ケニアにおける非行少年処遇の改善のため、職員人材育成に資するプロジェクトを推進してきました。この度の14名も、この人材育成プロジェクトの一環として来日したものであり、OJTの在り方のほか、少年司法・児童福祉の最新の知見を学ぶことを目的としていました。

研修期間は約4週間。

この期間に人材育成論、国際準則、ケースマネジメント、面接技法論等につき講義を受け、矯正施設、保護観察所、更生保護施設、児童福祉施設、裁判所等にも足を運んで実務を実地に学び、さらには学んだことを討議して、ケニアにふさわしいOJTのためのマニュアルを作り出す、というメニューになっています。

ちなみに、当方でお招きした講師は、海外・国内でいずれも評判の方々に、名声にたがわず第一級の講義を実施されました。折角の講師陣ですので、日本の法務省・裁判所関係者からも聴講者を募って講義に御参加いただきました。

そして、内容の濃い4週間の日々は、飛ぶように過ぎました。

研修最後の締めとなったのは、テレビ電話会議です。

当所にはテレビ電話会議システムがあります。これをナイロビと接続し、研修参加者からケニア側関係者に向けて、研修成果の口頭報告を行ってもらったのです。

しっかりと学びました、得るものがありました、とロ々に報告する彼らの横顔を見つつ、ふと思い出したのは、映画「クールランニング」。常夏の国、ジャマイカの陸上選手が、なぜか冬季オリンピック参加を思い立って、笑いあり涙ありの曲折を経て栄誉を目指すというお話です。

この度のケニア研修参加者も、アフリカから遠路はるばる、氷点下にもなる真冬の東京に来て、慣れない環境に泣き笑い苦勞もしつつ、持ち前の陽気さをバネに最後まで熱心に学ばれたのでした。

ともあれ、3月8日、閉講式の日が来ました。

在京ケニア大使館から公使参事官もお越しいただき、研修参加者に祝賀の意を示していただきました。晴れがましい表情の皆さんに、所長から修了証が手渡され、全員無事研修終了です。

研修運営に御協力をいただいた多数の方々、取り分け講師、見学先施設、保護司の方々の御尽力には頭の下がる思いです。この場をお借りして感謝申し上げます。

ありがとうございました。